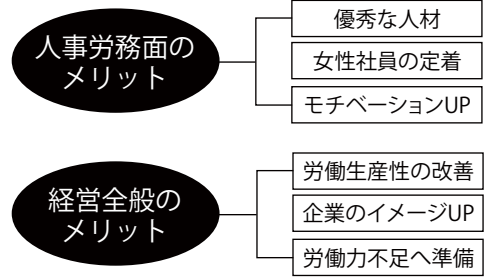


**ダイバーシティ(多様性)を体験することが理解への道。
その鍵を握っているのが、プレイバックシアターです。**

ワーク・ライフ・バランスの実現は、社員にとっても、会社にとっても確実に素晴らしいことであると断定できるものです。特に会社の人事労務や経営面から見てみると、右の図のように優秀な人材確保や生産性のアップなど、会社の将来を左右するほど大きなメリットを生み出します。従って、できるかぎり早期に実現したい課題です。しかし、素晴らしいことは重々承知していても、現実的になかなか進んでいかないのも事実です。それは、頭ではわかっても心からお互いの立場をわかりあい、それぞれの働き方を理解するのが難しいという点に一つの理由があるからではないでしょうか。



多様な生き方を受容していくためには、知識レベルを超えた認識が不可欠です。多様な立場に思いを巡らせることのできる相互理解が必要です。少しでも居心地の良いワーク・ライフ・バランスを目指していける鍵とも言えるでしょう。

そして、その鍵は、「プレイバックシアター」が握っています。



**プレイバックシアターは、自分とは違う考えを
あたかも自分のことのように体験できる手法です。**

プレイバックシアターは、「頭でわかる」から「心でわかる」に変わっていくプロセスを体験できる手法です。自分とは違う考え方を自然と受け入れている、そんな心の変化に気づいていけます。これまで抱いていた会社や仕事、上司や同僚などへの頑な感情が動き出し、新しい思考や価値観へと交換される過程をリアルに体験できます。

それは、プレイバックシアターが、様々な人の物語を見せ、自分とは違う考えや価値観を自分のことに置き換えて体験することができる演劇だからです。

たとえば、子育てのためにお休みをとることにしたある人の物語を見ることで、あたかも自分のことのように家族に思いを巡らせたり、介護のために残業しないでさっさと帰宅する人のストーリーに触れることで、かつての自分の親への対応を振り返ってみたり、プレイバックシアターは、自分とは違う人の立場から自分の立場へ置き換えることができるという特徴を持っているのです。

確かに多様性を心から受け入れることはとても大変なことです。でも、プレイバックシアターは、この問題を解決するための突破口になるはずです。

少しでも心地よい職場環境を、少しでも早く実現させるために。

